

ピーターのとおいみち



リー・キングマン 文 バーバラ・クーニー 絵
三木 卓 訳

講談社 1983年 絶版
47ページ 21×26cm

ピーターは深い森の中に住んでいる5才になったばかりの男の子です。ピーターの友だちはねこといぬとひつじとあひるだけです。5才になったら村の学校へ行き、一緒に遊ぶ友だちができるとお母さんは言います。ある朝、ピーターは1人で家を出て村へ向かいます。

“せなかぞくぞくっとしました”という表現が何度も出てきます。ピーターの不安と緊張が読む側にストレートに伝わってきます。初めての冒険旅行なのでから無理もありません。気がつくとピーターと一緒に歩いているような気分させてくれる絵本です。やがて来るかもしれないその日のために男の子も女の子も読んでおきたい1冊です。

ピーターラビットのおはなし



ピーターラビットの絵本シリーズ
ビアトリクス・ポター さく・え
いしい ももこ やく

福音館書店 1971年 735円
56ページ 14×11cm

(2002年 福音館書店 新装版あり)

いたずらっこのピーターはお母さんの注意も聞かず、お百姓のマグレガーさんの畑に入り、野菜を食べてしまいます。運悪くマグレガーさんに見つかったピーターは命からがら逃げ出します。

いたずらをするピーターが生き生きと描かれ、子どもたちも一緒に冒険を楽しむことができます。うさぎたちが動物本来の動きを損なわずに擬人化されており、ていねいに描かれている絵本です。

シリーズを通して、イギリスの湖水地方が舞台となっており、ポターが愛した自然と動物たちが細やかに美しく描かれています。